

天空に暮らす

まるで空を覆うかのように垂直な存在感を放ち、そびえる山々。九州中央山地に足を踏み入れると、緑深き原生林、清冽な流れをたたく深谷が次々に現れる。険しい谷川沿いに続くつづら折りの道。容易に人を受け入れない圧倒的なその自然は、独自の山村集落の形成、独特の習俗・文化を育み、ついに誇りある伝説を生み出した。

多くの日本人が失ったであろう、いしえからの森林文化が残る五家荘。木を伐り、木の実や皮を採取し、猪、鹿、鳥、イワナ、ヤマメを狩り、暮らす。現代にあってもなおここには森林の恵みを極とする人々たちの知恵を受け継いだ、山と共に生きる誇りが通潮と流れているのだ。



五家荘内の民宿にて

ここでしかふれあえない旅の宝物

滋味あふれる山の幸を 多彩な料理で味わう

年間を通して猪肉や鹿肉の料理が味わえる五家荘。嚼むほどに旨味が増す猪肉は、鍋にしてもうまい。野菜と二倍に煮込めば、絶品のタン汁が取れる。淡泊で柔らかな鹿肉は、そのまま刺しでいただけるほど新鮮だ。最近では、鹿カツ丼や竜田揚げなど、ひと手間加えた料理も食べられるように。山深き里で生きるため、山人たちもきつと、この山の幸を味わったに違いない。



塩肉



竜舟の竜田揚げ



鹿カツ丼

木 工 品

緑深き山々で暮らす五家荘では、古くから林業が盛んだが、ここで採れる杉や檜は、加工し



やすく丈夫で、軽いのが特長。香りも良いとされる。そんな良質の木材に魅了され、木工家具を作る工匠職人がいる。「五家荘工芸」の松田剛さんはその人だ。手がける作品は、いずれも木のあたたかみがあふれるもの。例えば、中央に火鉢が入られるダイニングテーブルなど、味のある木工家具を日々作り続けている。

五家荘で匠に出会う

草 木 染 め

自然あふれる五家荘で20年以上も草木染めに心血を注ぐ人の職人がいる。「黒木工房」



の黒木千穂(ちほ)さんである。クサギのブルー、セイタカアワダチソウの淡いレモン色、アカネからとる赤、タマネギの皮からとる黄金色など…。大自然から生まれる色で染め上げた糸は、なんともいえない美しさだ。「五家荘にしかない色合いを生み出すのが夢」と語る黒木さん。新たな色を作るため、山歩きをするのもしばしば。素材探しに余念がない。



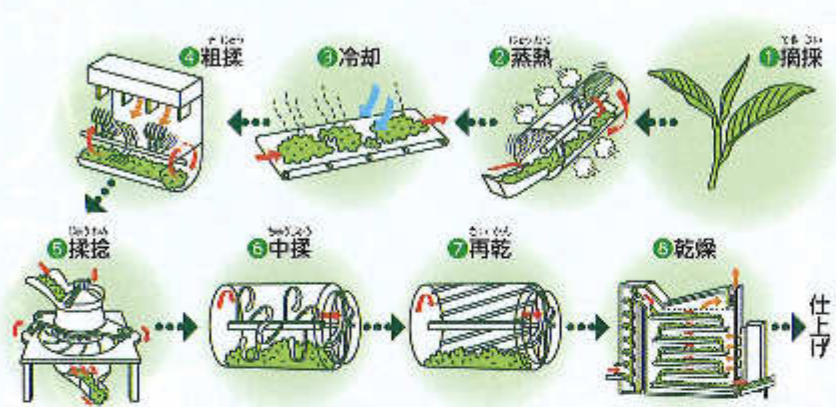


霧深い山里で生まれる
茶葉は力強く
野趣あふれる風味。
そんな茶葉を職人の技が
さらに磨きをかける。



茶

【tea】



お茶づくり

お茶の産地としても知られる泉町。ここが生産される茶葉のほとんどは、「玉緑茶」と呼ばれるものだ。製造工程は途中まで煎茶と変わらないが、煎茶のようにまっすぐな茶葉を作る精揉という作業がなく、代わりに回転するドラムに茶葉を入れ、茶葉を乾燥させる再乾という作業を行う。熟練の技が求められ、これにより、ぐるっと丸まった「玉緑茶」独特の形ができあがる。まろやかな口当たりで、渋みが少ないのが特長だ。



山に宝あり

山郷で出会う味覚はどこかあたたかい。豊かな自然に育まれた素材を代々受け継がれてきた技で仕上げる。心と体に染み渡る山の宝物を探しにいこう。



特産品の説明会を先
ふれあいセンターいすみ
△代官泉山下町center | TEL:0945-67-5500
休日のF・毎週水曜日 | 泉町 | 〒519-0201 泉町
<http://www.taninmura.com/Area/>
※お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地

- ヤマメ
清流な水で育つヤマメのせいじきは国産産地で大きく育ったため、味がおいしい。お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地
- どうぶつのお味噌汁
昔、焼き畑の土壌をよみがえらすために大豆を焼いた。焼いた土もよみがえらすために、味噌を焼いた。お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地
- 平家の里ミニようかんセット
ひと口サイズのミニようかん。お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地
- 梅干し
五家荘産の梅を産地、お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地



ゆず

九州の秘産。五家荘でとれる柚子は、味、香りともに格別。特にその清々しい香りは、一度口にすると、すっかり癖になる。そんな柚子を存分に楽しみたいのなら、柚子胡椒がおススメ。絶妙の辛みと柚子のさわやかな香りと風味の組み合わせは絶妙だ。引き立て役として日本料理に欠かせない独特の香気を楽しみたい。



- 産地の柚子こしょう
さわやかな産地の青柚子、青柚子、お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地
- 産地の柚子胡椒(青)
産地の柚子の果汁と塩を配合。お茶の産地・お茶の産地・お茶の産地
- 産地の産地柚子にんにく
柚子の皮を乾燥させたお茶の産地・お茶の産地・お茶の産地

ふたつの落人伝説

「言い伝えによると、五家荘にはふたつの落人伝説が残る。ひとつは平安時代、時の権力者、藤原一族により備前国の太宰府に流された菅原道真公の子孫、左座家が藤原一族の追っ手から逃げるため、この地に入り、仁田尾や樺木に隠れ住んだといわれる。

ふたつめは同じく平安時代、壇ノ浦の合戦に敗れた平治経の孫3人が、緒方姓を名乗り、葉木、久連子、権原で居をかまえた。それ以降、その5つの集落のことを合わせて「五家荘」と呼ぶようになったのだ。

この山深き里にたどりついた落人たちは、どんな気持ちで暮らしていたのだろうか。「五家荘」には今でも、落人にまつわる文化や場所が点検する。そのひとつが、久連子地区で受け継がれている久連子古代舞だ。

「シヤゲマ」と呼ばれる原天然記念物の久連子郷の尾羽根で作った化粧をかぶり、太鼓や笛を鳴らしながら踊るその様子はどこか悲哀がたたさう。落人たちも遠く都を偲びながら聞いていたであろう太鼓の音が、険しい山と青空しか見えない五家荘の風景の中に、淡々と響き渡っていた。



久連子古代の里

平家の落人たちの山奥での暮らしを伝承する資料館。久連子郷の町並と景観が再現されている。

歴史を語り、舞い踊る。



緒方氏を名乗り五家荘へ(伝説)

平家と源氏の愛の物語

五家荘には源平屋敷合戦に登場する玉虫御前にまつわる伝説も残る。鬼山御前と名を変え、山奥でひっそりと暮らしていた玉虫御前だったが、ここにも源氏の追っ手、那須守の息子、小太郎がやってくる。しかし、いつしか2人は夫婦になる。八代市泉町神道には保口神社があり、「乳の神様」として信仰を集めている。



▲鬼山御前の村景画▲

神秘的な五家荘の神楽

五家荘にはそれぞれの地区特有の神楽が伝えられている。例えば葉木神楽は、宮崎県の岩戸神楽をルーツとし、テンボが早いことと知られる。そのほか、樺木神楽や本屋敷神楽、岩奥神楽など、神秘的な舞いが奉納されている。



▲久連子鶏

葉木神楽 (Eki Kagura)
神楽にしか許されなかった神秘的な舞。宮崎県の岩戸神楽をルーツとし、テンボが早いことと知られる。そのほか、樺木神楽や本屋敷神楽、岩奥神楽など、神秘的な舞いが奉納されている。

樺木神楽

深夜まで舞う。老若男女の多彩な舞。心手神楽の舞をくぐり、1800年と伝わる。10月11日(祭日)に本神楽が奉納される。大勢の舞手は、10月11日(祭日)に本神楽が奉納される。大勢の舞手は、10月11日(祭日)に本神楽が奉納される。

本屋敷神楽

11月15日(祭日)に本屋敷神楽が奉納される。11月15日(祭日)に本屋敷神楽が奉納される。11月15日(祭日)に本屋敷神楽が奉納される。

岩奥神楽

今も受け継がれる。肥後神楽の神楽。肥後神楽の神楽。肥後神楽の神楽。肥後神楽の神楽。

岩奥神楽 (Iwano Kagura)
今も受け継がれる。肥後神楽の神楽。肥後神楽の神楽。肥後神楽の神楽。肥後神楽の神楽。

緒方家
今から約300年前に建てられたといわれる。葉木神楽の舞。権原地区にある緒方姓に名前を変えた。平清盛の子孫の領であり、2階の隠し部屋など、落人の暮らしを垣間見ることが出来る。1階には四神部屋があり、室内は落人らしい装束が飾られている。



左座家
「言い伝えによれば、平安時代、菅原道真の嫡男は左座太郎と改名し、仁田尾の地に落ちた。ひたすら、200年前に建てられたといわれ、菅原家の家紋である海老の文様や、3つの女闘などが描かれている。屋敷内には古文書も展示されている。



平安時代、菅原道真公の末裔や平家の落人が隠れ住んでいたという伝説が残る五家荘。その伝説にまつわる資料を展示しているのが「五家荘平家の里」だ。小高い丘の上に建つ施設で、あざやかな朱塗りが目を引く平家伝説館や能舞台を備えている。能舞台では、神楽、能、平家落人などの公演も行われる。館内には、五家荘全体の様子が分かるジオラマや平家落人ゆかりの品々が充実。



地元でとれる食材を使った「平家御膳」などの料理が楽しめる食事処もあり、人気を集めている。



山笑る

みずみずしい石葉が次第に濃い緑に変化しながら、山肌をあざやかに彩る夏。森の中には鳥の音が響き、渓流の川面から稚鮎が勢い良く跳ねる。

向岩戸公園

縦木の吊橋

せんだん轟の滝

鮎釣り・ヤマメ釣り



五家荘自然荘
最大40人まで宿泊する「ユカ」である研修施設。隣りに併った小学校の敷地もあり、木工室や伝統的染織工房がある。壁に包まれた木造の建物には、どこか懐かしい「野山荘」がにほひる。



五家荘渓流キャンプ場
日本三大滝のひとつ、川原町の源泉にあるキャンプ場。清流が舞うがけの深谷で、水遊びや川釣りも楽しめる。1専科漁業キャンプ用品のレンタルも充実していて、ワンガローヤント、炊事場も完備。小さい子どもも利用の人工河川も人気だ。



鮎釣り・ヤマメ釣り
五家荘を訪れたら楽しみたいのが渓流釣りだ。産卵袋を刺入すれば釣りを楽しむことができます。県内外から多くの人が集まる。

春山淡冶にして笑心が如く
夏山蒼翠にして滴るが如く

五家荘平家の里

氷川ダム

山芍薬

石楠花

梅の木森の滝

冬の間、ひっそりと息をひそめていた五家荘の山々は、春の訪れとともに一斉に若葉を吹く。やがて山は色付はじめ、一気に明るく変化していく。

山笑るの春

山眠る 冬

五家荘の山々が静まり返る冬。一方で、山肌は雪化粧で覆われ、美しい樹氷が木々を飾る。そこには見たことのない神秘的な風景が広がっている。



縦木の吊橋



樹氷



福寿草

秋山明浄にして粧心が如く 冬山惨淡として眠るが如し



梅の木森公園吊橋



縦木の吊橋



五家荘平家の里



縦木の吊橋



五家荘平家の里



梅の木森公園吊橋

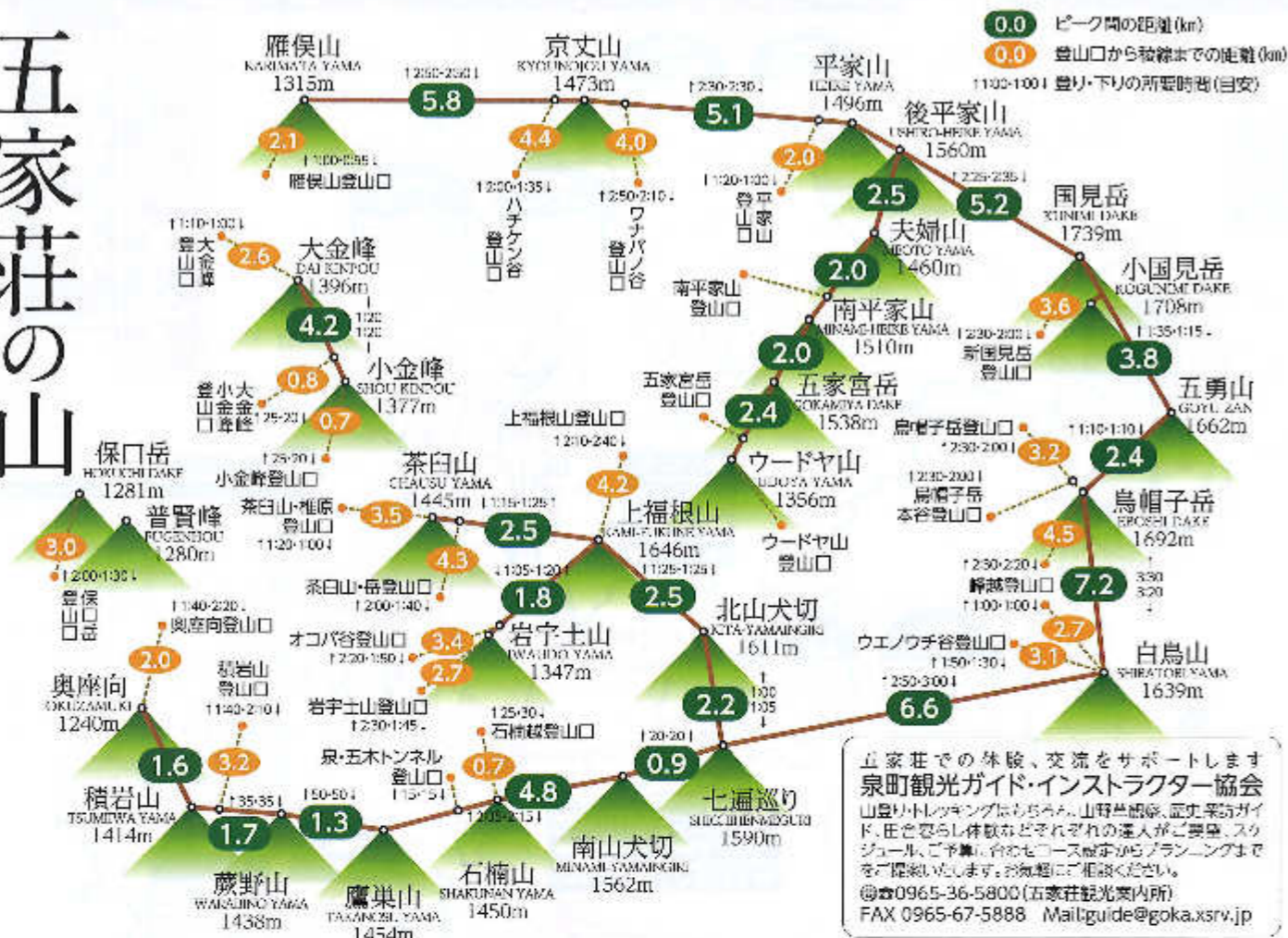
山粧う 秋

秋になると、紅葉が五家荘の姿を「よそおう」。赤と緑と金色……。渓谷がもっとも美しくなる季節である。

せんだん轟の滝



五家荘の山



1000mを超える九州中央山地の山々に囲まれた五家荘。熊本県内最高峰の国見岳(1739m)をはじめ、鳥帽子岳(1692m)や白鳥山(1639m)など、九州百名山として紹介されている山や、登山ファンに人気を集める山、合わせて20以上の山々が連なる。

快適に山を楽しむよう登山道の整備を行っています。



※五家荘登山道整備プロジェクト

天空の山脈

どこまでも続く稜線。そびえる九州中央山地の山々。ただ静かに山はたたずむ。それはまるで、天空を支えているかのようだ。



白鳥山・御池

標高1639m。九州百名山の二つとして名高い。コースは初心者にも登りやすい登山ルートが整備され、途中には平家落人の遺跡が残り、いたるところに御池と呼ばれる湿地帯がある。これはドリーネと呼ばれる石灰岩台地の地表に生ずるすりばち状のくぼ地で、苔むした築山時と変わりぬ姿を残し、伝説を感じさせる神秘的な雰囲気を漂わせている。



五家荘 祭り・イベント

- 4月 8日 釈迦院花祭り
- 6月 第1日曜 平家いずみお茶まつり
- 7月 下旬 ヤマメつかみ取り大会
- 10月 10月25日～ 五家荘紅葉祭
- 11月 11月20日

※この他にも、年間を通して各地で祭り・イベントが行われています。



お問い合わせ

八代市泉支所 〒869-4401 (熊本県) 八代市泉町 5121
Tel 0965-67-2111

URL: <http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/>
E-mail: iz-chiiki@city.yatsushiro.lg.jp

五家荘観光案内所 〒869-4514 熊本県八代市泉町植原148
Tel. 0965-36-5800

五家荘ねっと
URL: <http://www.gokanosyo.net/>

八代市観光課 0965-9601 八代市観光課 0965-33-4115
八代市観光協会 0965-0624 八代市観光協会 0965-31-8200
五家荘観光案内所 0965-0621 五家荘観光案内所 0965-32-2436

熊本県八代市泉町

天空の遺産

熊本県八代市泉町

五家荘

先人たちが営々と築き上げた……

天空の遺産

天空に暮らす 02

山に宝あり 心と体に染み渡る 04

ふたつの落人伝説 06

歴史を語り、舞い踊る

山笑う山滴る 春夏秋冬 08

山粧う山眠る 08

地図 08 どこまでも続く稜線